

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 戸ノ上 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

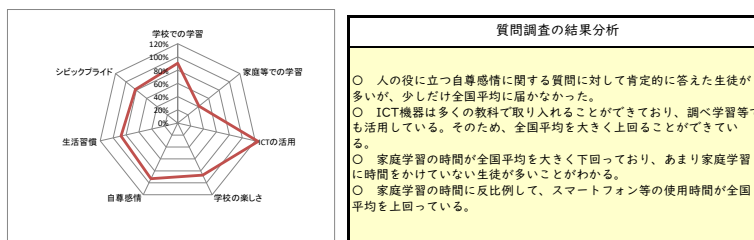
- 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付け、自分の考えをまとめることを得意としているが、短文の内容について、描写を基に捉えることや具体と抽象など情報と情報の関係について理解することを苦手としている。そして、無解答率も高い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	授業では、小テストやワークでの反復練習を行い、基礎計算力向上に取り組んでいる。「図形」、「データの活用」分野の正答率が低く、今後手立てをとる必要がある。「関数」分野に関しては、比較的、全国、県の平均に近い正答率であるので、引き続き様々な問題に取り組めたい。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

- これまでどおり、多くの教科でICT機器を用いて、調べ学習等に積極的に取り組み、生徒に教科書に書かれてない内容でも意欲的に調べ学習に取り組む。
- 家庭学習に向けてのアドバイスや取り組み方の説明を行い、少しでも家庭学習の時間を増やす。

- 家庭生活習慣等に関する取組

- 規則正しい生活、早寝早起き、朝食を摂る習慣を身につけるための声かけ等を行う。
- 保護者とスマートフォン等の使用時間等のルールやマナーなどを守り、効果的に家庭学習に取り組めるようにする。